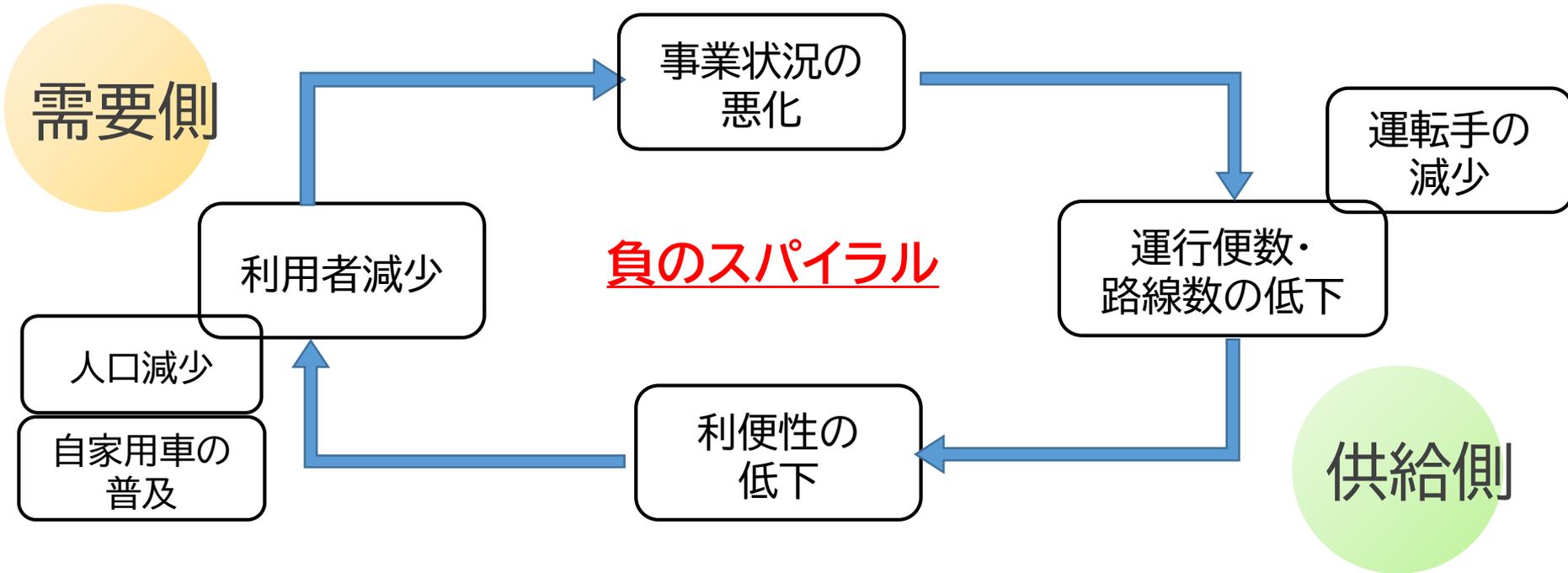


# 福岡県における 地域公共交通の課題と展望

令和6年10月24日

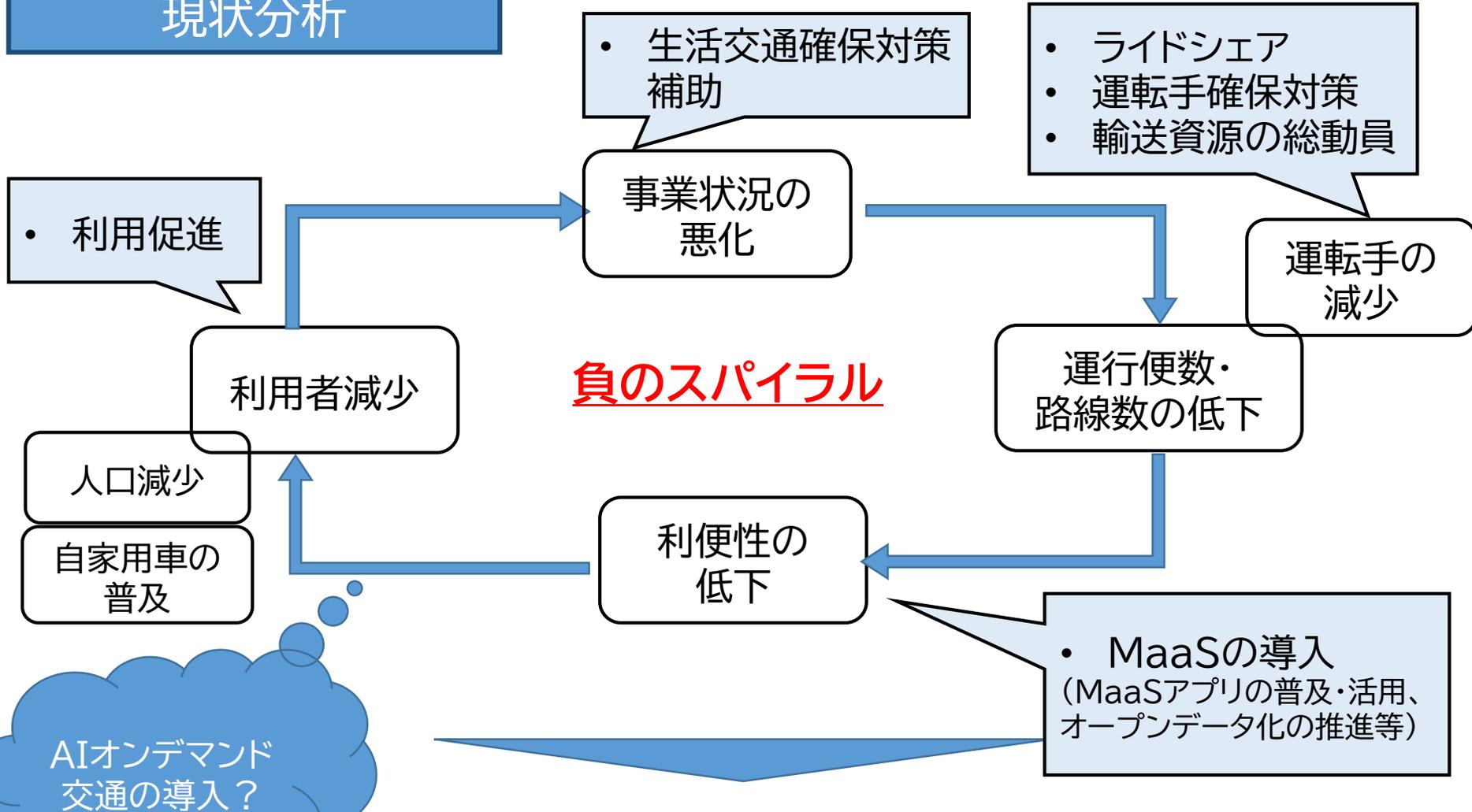
福岡県 企画・地域振興部 交通政策課

現状分析



地域公共交通の維持・確保への懸念

## 現状分析



地域公共交通の維持・確保への懸念

## 論点

- ① 地域公共交通の赤字を減らすには収入確保だけでなく、コストを抑えることも必要だと思うが、こういった取り組みが考えられるか。
- ② 幹、枝、葉の交通の在り方について再考する余地があるのではないか。地域の事業や特性によるが、どう考えるか。
- ③ 「地域の輸送資源の総動員」をテーマに、自動車学校との連携等が県内でも見られるが、他にこういった事例が考えられるか。
- ④ 地域公共交通における県の役割とは。

# 地域の公共交通リ・デザイン実現会議 とりまとめ 概要

## 検討の背景・必要性

- 人口減少に伴う病院の統廃合・移転、学校の統廃合等のほか、高齢者の免許証の自主返納等により、日常生活における「移動」の問題が深刻化
  - 交通分野だけでなく、様々な分野における人手不足等の課題が顕在
  - 地域によっては公共交通事業者のみでは、旅客運送サービスを維持することが限界
- 関係府省庁が連携し、交通のリ・デザインと社会的課題の解決に向け、一体的な検討が必要

### 地域公共交通の状況

<将来の人口増減状況>	<路線廃止の状況>	<ドライバー数の状況>	<居住地域に対する不安(地方部)>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の約半数の地域で人口が50%以上減少(2050年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バス: 約2万kmの路線が廃止(2018年度→2022年度)</li> <li>・鉄軌道: 約589km、17の路線が廃止(2018年度→2022年度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗合バス: 約12%減少(2019年度→2021年度)</li> <li>・タクシー: 約15%減少(2019年度→2021年度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通が滅び自動車が運転できないと生活できない: 約40%</li> <li>・徒歩圏内のコンビニ、スーパー、病院などの施設が少ない: 約30%</li> </ul> <small>(※2017年国勢調査(自治体別国勢調査))</small>

## 地域類型ごとの課題解決に向けた方向性

A: 交通空白地など	B: 地方中心都市など	C: 大都市など	D: 地域間
<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共交通事業者だけでは移動手段を十分に提供することが困難</li> <li>⇒ 地域の輸送資源の総動員・公的関与の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提供されている公共交通と、各分野の送迎輸送との重複による需要の分散がみられ、将来的に公共交通の持続性が課題</li> <li>⇒ 地域の公共交通の再評価・徹底活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○内外から多くのビジネス客・旅行者が訪問(一部時間帯・エリアでは供給が不足)</li> <li>⇒ 利便性・快適性に優れたサービス提供を質・量ともに拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口減少等が進む中、広域での社会経済活動の活性化が重要</li> <li>⇒ 幹線鉄道ネットワークの機能強化等の取組について地域の実情に応じて検討</li> </ul>
<p>連携・協働を推進し、移動手段の確保・持続可能な交通ネットワークの構築を図る必要</p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>●自家用有償旅客運送制度の見直し及び活用 (道路運送法78条2号関係)</li> <li>・自治体が主体となった取組みが各地で進展中</li> <li>・道路運送法に基づく地域公共交通会議について、運営手法の柔軟化を検討</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の自家用車・ドライバーを活用した新制度の活用 (道路運送法78条3号関係)</li> <li>4月1日より取組開始</li> </ul>	

## 連携・協働の推進に向けた環境整備

環境の醸成			取組の実装		
<h3>政府共通指針の策定</h3> <p>政府一体として、「地域交通を再構築(リ・デザイン)していくための多様な関係者による連携・協働に係る指針」(仮称)を策定し、全自治体に取組を働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地方公共団体における交通部局及び関連部局との連携推進</li> <li>●部局間の情報・データ共有の推進及び新技術・デジタル技術の活用</li> <li>●自家用有償旅客運送の積極的な活用</li> <li>●地域の輸送資源の活用推進</li> </ul>	<h3>各分野の指針・通知の策定</h3> <p>各分野の送迎について、地域住民の混乗、公共交通への委託・集約、空き時間の活用等を推進するための事項を明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;教育・子育て・スポーツ分野&gt;</li> <li>●スクールバス</li> <li>●放課後児童クラブの送迎</li> <li>&lt;介護・福祉分野&gt;</li> <li>●介護サービス事業所等の送迎</li> <li>&lt;医療分野&gt;</li> <li>●へき地患者送迎車の送迎</li> <li>&lt;分野共通&gt;</li> <li>●自家用有償旅客運送への多様な関係者の参画</li> <li>●送迎活用等に係る道路運送法の取組</li> </ul>	<h3>カタログ化による支援</h3> <p>連携・協働のプロシユト例について、データ・支援措置を交えてカタログ化</p> 	<h3>法定協議会※のアップデート</h3> <p>多様な関係者が参画し、喫緊の課題へ機動的に対応できる司令塔機能の強化へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●多様な関係者の協議会参加</li> <li>●モニタリングチーム(自治体と事業者等)</li> <li>●デジタル活用による運営効率化等</li> </ul> <small>※地域交通を基盤として設置される協議会</small>	<h3>地域公共交通計画のアップデート</h3> <p>データを活用し、可視化された課題に先手先手で地域全体を面的に捉えて取り組む計画へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「モデルアーキテクチャ(標準構造)」に基づくシンプルで実効的な計画策定</li> <li>●移動に関わるデータ(人口・施設動向、交通サービス、潜在需要等)の作成・共有・活用等</li> </ul>	<h3>施策のアップデート</h3> <p>新たな制度、技術も活用し、地域公共交通計画に位置付ける施策の充実・強化へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自家用有償旅客制度、自家用車活用事業の活用</li> <li>●新技術・デジタル技術の活用</li> <li>●貨客混載の推進</li> <li>●モビリティハブの機能強化</li> <li>●交通事業者の共同経営</li> <li>●エリア一括協定運行</li> </ul>
			<h3>都道府県によるサポート(中小市町村との連携・協働)</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リ・デザイン (実証運行、新技術等を先導)</li> <li>○デジタル (データ共有・活用の推進)</li> <li>○ヒト&amp;プレイス (人材育成、ネットワークの場)</li> </ul>		
			<h3>国によるサポート</h3> <p>伴走体制の構築</p>		

## 取組の加速化

多様な分野との連携・協働等による取組を、アップデートされた地域公共交通計画・協議会等のもと、意欲的・先行的に行う自治体について、関係府省庁による重点的な支援を行う仕組みを検討

## 継続的な連携・協働の取組の確保

連携・協働に向けた取組が継続して行われるよう、KPIを位置付けつつ、定期的に進捗状況のフォローアップを実施

KPI	目標年次: 2027年度	(デジタル田園都市国家構想総合戦略の期間)
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓各施設の送迎の見直しに新たに取組む自治体数 100</li> <li>✓他分野との連携・協働に先導して取組む自治体数 100</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓自動運転移動サービスの活用に取り組む箇所数 100</li> <li>✓AIオンデマンド交通の活用に取り組む自治体数 500</li> <li>✓自家用有償旅客運送に取り組む団体数 1,000</li> </ul>	

## 今後の課題として提示された意見

- 地域の交通事業者の集約・統合
- 国と自治体の役割分担
- 地域の実情に応じた自動運転の実装のあり方
- 地域交通の維持のための財源負担のあり方
- 鉄道における自然災害への対応

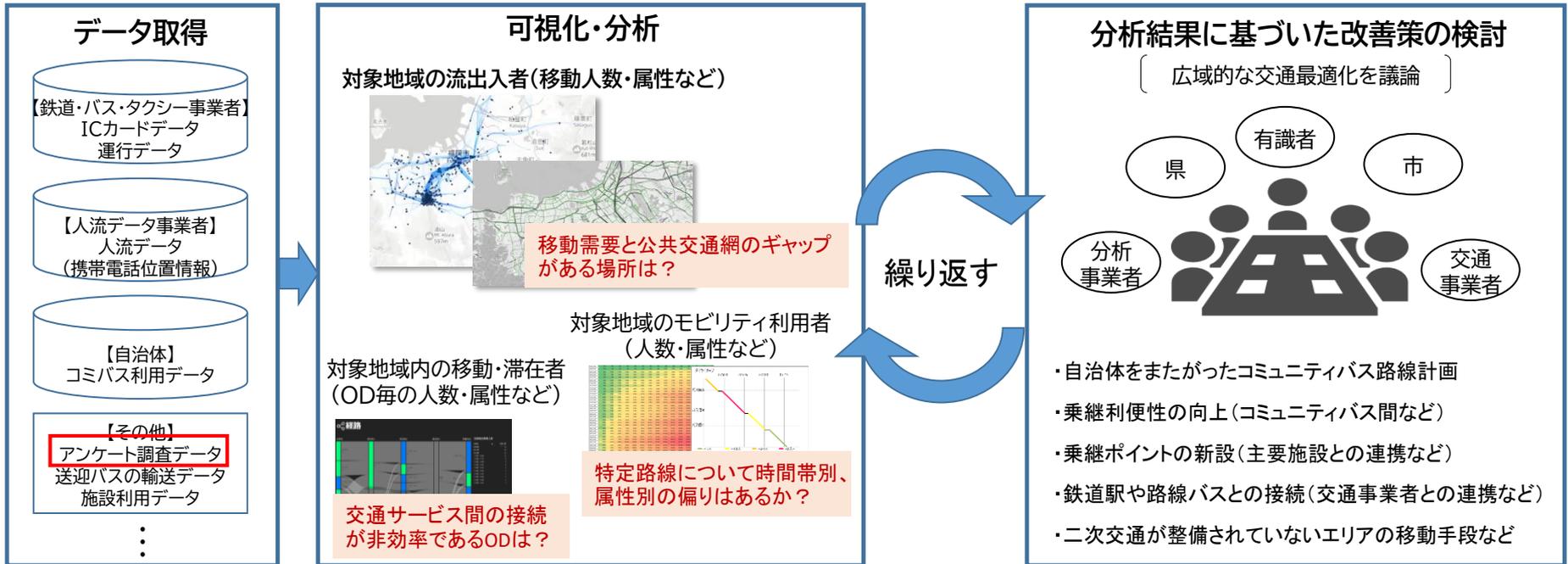
## 論点④: 県の役割

## (4) 都道府県によるサポート（中小市町村との連携・協働）

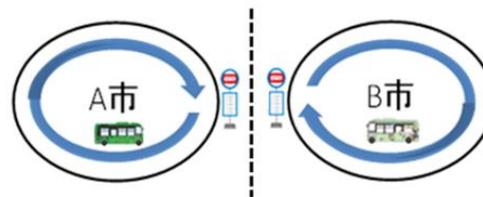
法定協議会や地域公共交通計画のアップデートを推進するにあたっては、特に中小市町村における交通政策の推進体制（人員・予算等）が不足していることから、都道府県においては、これまで以上に市町村を牽引・伴走する役割が期待される。

特に、複数の地方公共団体に関わる施策の調整・推進、新技術等を活用した実証運行の取組、広域的なデータ共有を推進する枠組の構築や市町村によるデータ活用の推進、自治体職員等の人材育成や生活圏域に応じた複数市町村によるネットワーキングの場の提供等といった観点での取組が期待される。

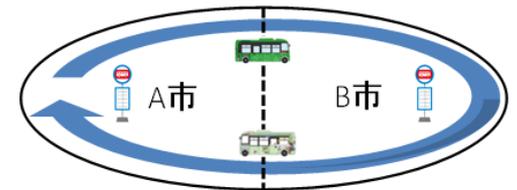
## 論点④: 県の役割



○複数市町間を直通運行する  
コミュニティバス・路線バス



○バス停及び停留所施設の整備における  
乗継での広域運行



# バス・タクシードライバー



## バスドライバーのメリット

01. ライフステージに応じた制度。女性も働きやすい環境です。
02. 「運転が好き」な情熱と技術が活かれます。
03. 地域に貢献できる誇りを持てる仕事です。



## タクシードライバーのメリット

01. ライフスタイルを重視できる働きやすい環境です。
02. 安全面にも配慮、女性も安心して活躍できます。
03. 頑張った分だけ収入につながる夢のある仕事です。

詳しくはこちら！



## バス・タクシードライバー 魅力PRイベント・体験会開催！

### バス・タクシー魅力PRイベント

11月2日(土)

時間 11時頃～18時頃予定

場所 天神地下街イベントスペース

### バス運転体験会

11月16日(土)

時間 10時頃～16時頃予定(午前・午後2部制)

場所 西鉄バス研修センター ※事前予約制

当日は現役タクシードライバーによるトークイベントや個別相談会を実施！

当日は現役バスドライバーによる座談会や合同会社説明会も実施！